

妙心寺団体参拝の募集

前回もお知らせましたが、左記の日程で本山妙心寺に参拝します。是非この機会にご参加下さい。

令和8年6月13日(土)

午後4時 妙心寺花園会館集合

14日(日)午前11時頃解散

(1室2名利用の場合)

(1室2名利用の場合)

本山への交通機関やおすすめの

観光コースなどもご紹介します。

お便りをお問い合わせ下さい

實相寺花園會報

令和七年
十一月一日發行
發行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集發行人
山本文国
<https://www.jisouji.net>

第199号

お寺の掲示板

生ぜしも
ひとりなり

死するも

独
な
リ

住するも独なり

一遍上人語錄

神の独子となる。」 『一遍上人語録 14

捨

坂村真民

大藏出版



「父母恩重經」を読んで⑨
この後、「懷胎守護の恩」など具體的な十種の恩が説かれますが、内容はこれまでと大差ないので省略します。今回、なぜ『父母恩重經』を取り上げたかというと、初回に述べたように、老親の立場でこのお經を読むと何が見えてくるか? を確認したかったからです。

そこであらためて、このお經の中で語られている「親の姿」を確認してみましょう。

1 父に慈恩あり、母に悲恩あり。
2 母は自らの衣食を子に与えた。
3 母は外出しても幼子が気がかりで仕方ない。家に帰つて我が子の喜びを我が喜びとした。

10 ちょっと用事があつて息子を呼ぶと、目を三角にして怒る。嫁も孫もそれを見て真似をする。

11 急用があつて「早く来て!」と呼んでみても、十回呼んでも九回来ず、やつと来てくれたと思つたら、「老いぼれて長生きするよりも、早く死んだ方がいい」と罵られる。

概ね以上が『父母恩重經』に描かれている親の姿ですが、どうお感じになりますか?

正直、私は自分の若い頃の態度であると反省すると共に、子供達が巣立つていった、現在の淋しさにも通じると思いました。

この『父母恩重經』は七世紀に中国で作られ、我が国では江戸時

4 親が、火や刃物など危険な物の扱い方から、毒や薬の見分け方まで、身を以て教えてやつた。

5 出先でご馳走を貰えば、我が子に持ち帰つていたが、たまに土産が無い時、子は泣いたり怒つたりして親を責め立てた。

6 長じては友人の前で恥をかかない様、親はボロを着ていても、我が子の身なりは調えてやつた。

7 息子は結婚すると嫁と二人だけで楽しく自室で過ごしている。

8 老いては子や嫁だけが頼りなのに、日に一度も顔を見せない。

9 連れ合いに先立たれてからは、一人冷たい部屋で過ごすばかりで、家庭に何の温かさも団らんもない。

代に大変流行したお經なのですが、千四百年前も、三百年前も、現在も、人間の営みは本質的に変わらないということを感じますし、同時に大昔から「こういう風に親を粗末にしてはダメだよ」と諫められてきたということでしょう。

数十年前までは三世代同居があたり前でした(とはいえ戦後80年も経つ訳ですが)。「老いては子に従え」の諺もあるように、当然そこには老いたら、老いたなりの生き方があつたのだろうと思います。

しかし戦後の高度成長期に核家族化が進むと共に、今では幾つになつても変わらないことが幸福だとされています。(続)